



# みんなの回生

題字揮毫  
元県知事・前川忠夫



- 新年のご挨拶 理事長・病院長・副院長兼看護部長 .....2~3
- はじめまして ..... 3
- なぜなに!? 骨粗鬆症!! ..... 4
- 認定作業療法士を取得して..... 5
- 中国四国DMAT技能維持研修を開催しました/高松空港訓練に参加しました ... 6
- 第2回 回生病院地域連携研修会開催/市民公開講座開催 ..... 7
- 山の話 (44) ..... 8

### ● 医事課より患者さまへお知らせ

平成28年1月より、毎月初めての受診日には、総合受付窓口にて保険証、現住所、ご連絡先等の確認をさせていただくことといたしました。また、保険証等変更があればその都度お申し出て下さいますようお願いいたします。

### 回生病院理念

皆さまに愛され信頼される病院を目指します

### 回生病院基本方針

- 一、私たちは質の高い医療を提供します
- 一、私たちは保健・医療・福祉と連携を図ります
- 一、私たちは予防医療の充実に努めます

### 患者さまの権利と責務

- 一、患者さまには、最善で公平な医療を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療内容について十分な説明と情報を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療行為について選択・同意・拒否する権利があります
- 一、患者さまには、個人情報保護される権利があります
- 一、患者さまには、自らの健康に関する情報を提供する責務があります
- 一、患者さまには、病院の規則を守る責務があります

2017年1月  
283号

お正月  
1月

## 新年のご挨拶

理事長 松浦一平



新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

昨年も多くのお出来事が世の中を騒がせた1年でしたが、予想を覆す結果となったアメリカ大統領選挙は、私だけではなく多くの方々へ衝撃を受けたのではないかと思っています。現在心配されている国際テロの激化やアジア諸国問題等の解決策が不透明な状況において、今回の結果が今後の世界情勢にどのような影響を与え、また変化していくかはわかりませんが、いずれにせよ良い方向へ向かうことを期待しています。

国内では熊本をはじめ各地で大きな地震が発生し、多くの方々へ犠牲となりましたが、なかには施設損壊の影響で病院運営の継続ができなくなった我々の仲間もいました。私も回生病院には災害時に活躍する優秀なDMAT隊員が多数在籍していますが、同時に病院職員に対する研修を行いながら、今後発生が予想されている南海トラフ地震に備えています。

回生病院が開設され今年で60年が経過しましたが、これまで病院周辺の皆様をはじめ多くの方々のご支援により今日まで地域の中核病院としての役割を担うことができました。今後も安全で質の高い医療を多くの皆様に提供できるよう、職員一同これまで以上に努力精進してまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

病院長 鎌野周平



明けましておめでとうございます。新しい年2017年には、何が私たちを待っているのだろうかかと希望が膨らむ一方で不安もあると思います。

2016年は熊本地震と鳥取地震が起こり、また東北地方では台風10号による災害がありました。私たちの住んでいる香川県は気候が温暖で自然災害の少ない地域です。しかし日本では田舎とレッテルを張られる四国にあり、若い人は高校を卒業すると都会に憧れて、進学や就職のため大都会を目指して香川県を出て行きます。「都市の空気は人を自由にする」という中世ドイツの言葉がありますが、大都会には人を引き付ける魅力があります。オフィス街に高層ビルが林立し、駅ごとに大きな商業施設・娯楽施設が設けられており雑踏があり文化があります。ドクタースタッフ等の人気テレビドラマも舞台は全て大都会です。かくして地方から若い世代の人口が流出し地方には高齢者が取り残されて行きます。一方都会に流出した若い世代は高い住居費を負担することとなり、ある程度収入が増えるまで結婚できず高齢出産となり少子化の一因となっています。

医療の世界でも、特に新臨床研修医制度以降は若い医師が大都市の大病院に流出して、地方の病院では医師不足となっています。また地方の中でも、東京一極集中と同様に県庁所在地に医師が集中し、田舎に行くほど医師不足が深刻となり産婦人科医・小児科医の全くない地域が増えています。回生病院では、比較的医師数に余裕のある高松市に隣接しているという利点を活かして必要な常勤医師を確保し、神経内科等の特殊な診療分野では大学病院から非常勤医師として派遣して頂いています。回生病院は中讃地域の中核病院として地域住民の皆様方にも、また地域の先生方にも頼られる病院であり続けるため2017年も努力を続ける所存であります。変わらぬ御愛顧をお願いします。

最後に、回生病院は災害拠点病院でもあります。近い将来起こるであろうと危惧されている南海トラフ大地震に際しては、地震発生と同時に通常業務を中止します。地震により負傷された方は、回生病院玄関に来て頂ければトリアージ（怪我の程度に応じた選別）させて頂き、それに応じた治療を行う事となっています。



## 新年のご挨拶

副院長兼  
看護部長 池内眞理子



新年明けましておめでとうございます。皆さまにとって、新しい年が良い年となりますように心よりお祈り申し上げます。

少子超高齢社会の進展の中で、2025年を見据えた社会保障制度改革の動きが進んでおり、在宅医療・介護の推進、医師、看護師等の医療従事者の確保・勤務環境の改善、地域包括ケアシステム等が推進されています。

特に、地域包括ケアシステムの構築に向け、各都道府県では、「地域医療構想」の策定が急がれており、「病床機能報告制度」が導入され、病床の機能分化・連携が進んでいます。さらに人材確保のための「看護師等の届出制度」、地域の多様な医療ニーズに対応できる人材育成のための「特定行為に係る看護師の研修制度」が開始されました。また医療機関の勤務環境改善の努力義務化など、看護にかかわる多くの改革が本格的に進んでいます。

これまで、看護職の主な活動の場は病院施設で行われる看護では、生命維持や疾病からの健康回復の側面に主眼がおかれていました。これからは、臨床の急性期・慢性期は当然ですが、在宅医療に至るまでのすべての健康段階、あらゆる場で看護が行われる時代となります。

このように看護の提供の場が幅広く拡大し、多様化していきますと、働き方も看護実践も拡大・多様化していくこととなります。

しかし看護実践の内容や場が変容しても「必要とされる看護を提供し続けること」が重要であり、さらに提供する看護には、質の高いレベルが求められます。

看護の拡大と多様化に対応するには、看護職1人ひとりの看護の核と基盤となる看護実践能力（看護職のクリニカルラダー）↓（ラダーは「はしご」ともいわれるように、能力を習熟していく昇段ステップの段階）育成が重要であり、課題です。

刻一刻と変化していく時代に、日本看護協会のクリニカルラダーを基盤に当院のラダー教育を再構成し、1人ひとりが専門職業人として看護実践における自己評価や自己研鑽の目安としてラダーを活用し、看護のやりがいや看護の明確化をはかり、看護を次世代につなげるように努力していきたいと考えています。

今まさに「地域の中の看護」を考えていく必要があります。地域全体の医療看護連携は必然であり、当院も2015年12月より地域包括ケア病棟を2病棟設立しています。地域包括ケア病棟とは、急性期治療を経過した患者さん及び在宅において、療養を行っている患者さんの受入れ並びに患者さんの在宅復帰支援を行う機能を有し、地域包括ケアシステムを支える役割を担っています。急性期病棟から地域包括ケア病棟において、日常生活の支援を十分にを行い安心して在宅に帰れるよう援助する機能を構築しています。

病院理念の「皆さまに愛され信頼される病院」、看護部理念「信頼していただける最良の看護を提供します」この理念のもとに看護部一致団結で全力を注ぎ前進していきたいと考えております。

本年も皆さまの温かいご支援とご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

## はじめまして



外科部長

山本 幸司

2016年10月より外科に赴任いたしました山本幸司と申します。出身大学は愛媛大学ですが、生まれは香川県丸亀市で、高校卒業までは丸亀市で過ごしました。卒後は愛媛大学第一外科に入局しましたので、愛媛大学附属病院・松山赤十字病院・市立宇和島病院・愛媛県立中央病院・愛媛県立今治病院など、主に愛媛県内の病院で勤務してまいりました。このまま故郷を離れ（といっても、車で1時間半程度ではありませんが…）愛媛に骨を埋めることになると考えておりましたが、縁あってここ回生病院にお世話になることとなりました。

回生病院は地域の基幹病院として災害拠点・救急医療をはじめ様々な患者様に対応している働き甲斐のある病院と認識しております。卒後20年、主に地域の中核病院で消化器外科一般に広く対応するように努めてまいりました。これから当院でも基幹病院の一役を担えるよう、また患者様のニーズに幅広く対応できるよう尽力したいと考えております。

また、高校を卒業して以来香川に帰ってまいりましたので、30年近く前とはいろいろ様変わりしていることが多く、日常を含め新鮮な気持ちで過ごしております。わからないことが多いので、私生活を含めいろいろ教えていただければと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

# なぜなに！？骨粗鬆症！！

整形外科 善成晴彦

## —骨粗鬆症って何？？

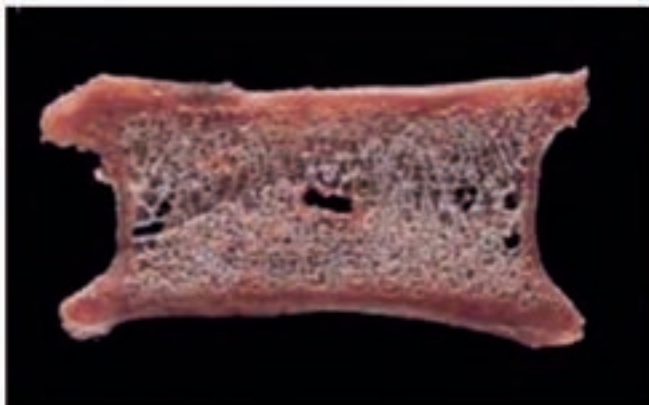
骨粗鬆症は、生活習慣などにより骨がスカスカになって骨折しやすくなる病気です。初期では、自覚症状はありませんが、腰や背中に痛みが生じたときや、骨折をしてしまい医師の診察を受けてはじめて見つかる方も少なくありません。骨粗鬆症は閉経期以降の女性や高齢の男性に多くみられますが、若い方でも栄養状態の悪化や運動不足、ステロイドなどの影響でなることもあります。

## —どうやって予防するの？？

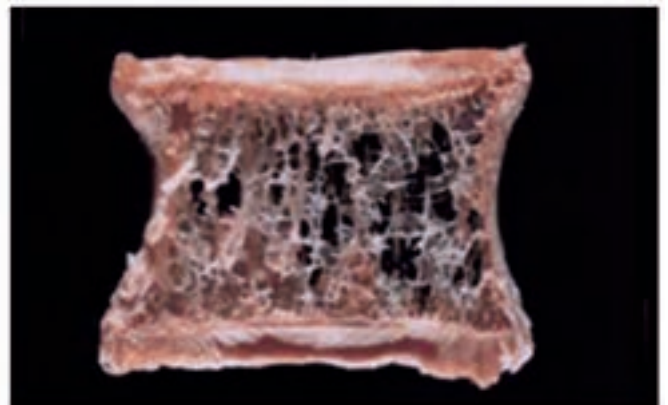
骨粗鬆症は、適度な運動と普段の食生活で予防することができます。骨を強くするための運動は、散歩などの趣味の範囲で十分です。また、家事で毎日こまごまと動くことでも骨を強くできます。食事では、カルシウムと合わせてカルシウムの吸収を助けるビタミンDを多く含む食品をとることも大切です。カルシウムは乳製品や大豆製品、小魚、緑黄野菜、海草などに多く含まれています。

## —どんな検査や治療をするの？？

骨粗鬆症と診断するには、まず骨の量を測る検査をします。「骨密度測定」ともいわれます。測定機器には目的に応じていろいろな種類がありますが、いずれも苦痛を伴わず、短時間で安全に検査できます。他の病気が原因と疑われるときには、このほかに血液検査や、尿検査、レントゲン検査なども行われます。また、骨粗鬆症の診断には問診も重要な手がかりとなります。学会が定めた診断基準を用いて、これらの検査結果から骨粗鬆症の診断にいたります。骨粗鬆症の治療で大切なことは、日常生活の中で骨量を増やす努力をすることです。何年もかかって減ってきた骨ですから、再び増やすためにはこつこつとした努力の積み重ねが重要です。さらに病気が進むと薬物療法を始めますが、どんな薬を選んで、いつから治療を始めるかは、患者さんの年齢や症状の進み具合により医師が判断します。気になる方は、ぜひ整形外科外来へ相談にきて下さい。



正常な背骨の縦断面



骨粗鬆症の背骨の縦断面

## 認定作業療法士を取得して

### リハビリテーション部 作業療法課 播磨 嘉美

一般社団法人日本作業療法士協会認定作業療法士とは、作業療法の臨床実践、教育、研究及び管理運営に関する一定水準以上の能力を有する作業療法士を本会が認定したものをいいます。

臨床実践とは他職種との連携や社会資源の活用、職場や行政などの制度の利用を含めた、総合的かつ継続的に作業療法を提供していく過程や予後（将来的展望）に立った作業療法の展開を実践する能力を、教育能力とは養成施設や学校における教員としての教育能力及び臨床実習指導者、また職場での指導者として後輩への知識・技術のなどの伝達者としての能力を、研究能力とは日常の臨床実践経験をもとに実践報告や作業療法学の発展のための研究が行える能力を、管理運営能力とは職務に関わる関連諸制度を理解し、職場での管理運営を執行できる能力をいいます。

今回の認定にあたりこれらの研修と身体障害や精神障害等の各論の研修を受講と症例報告を実施しました。研修を通して、院内での作業療法士の役割として、チーム連携がより質の高い医療、サービスを提供できる事を再確認しました。また行政サービスや周辺施設との連携について理解を深める事で地域社会に貢献できることに繋がると思います。研修で得たことを現場で実践できるように努めたいと思います。

### リハビリテーション部 作業療法課 三木 聖子

2016年3月に認定作業療法士を取得することができました。全国に約80,000名いる作業療法士の中で認定作業療法士は現在810名であり、香川県内に14名の認定作業療法士がいます。まだまだ少ないですが、当院にはそのうち4名の認定作業療法士が在籍しており、また取得に向けて頑張っているスタッフもいます。

適切な評価、訓練、情報提供等、様々な面から他職種と協力し、患者さんが退院後、安心していきいきとした生活が送れるよう、引き続きお手伝いできればと思っております。

また、今後も更なる知識・技術の習得をし、患者さんならびに病院に還元できるよう日々努力したいです。

### リハビリテーション部 作業療法課 多田 晃平

認定作業療法士を取得して、はや2年が経とうとしております。これも、ひとえに患者さんのご協力とスタッフの協力があつたからこそ得られた資格だと思っております。今後も患者の皆さんへ感謝の気持ちを忘れずに、質の高いリハビリを提供させていただきたいと思っております。





## 中国四国DMAT技能維持研修を開催しました

平成28年9月10日11日両日、中国四国DMAT技能維持研修を、回生病院にて開催しました。

DMATとは「災害の初めの段階で、すばやく医療活動できるトレーニングを受けた医療チーム」の事です。

災害はいつどこで起こるか分からないのが現状です。その時、我々DMATはあらゆる事態を想定し、活動をしなければなりません。

そのためにDMAT隊員には技能維持・向上を目的とした資格更新が義務づけられており、研修への参加が要件となります。

技能維持研修とは隊員の技能維持、向上を目的しており、EMIS(広域災害救急医療情報システム)、トリアージ研修、各本部の運営、病院支援及び受援が研修の内容です。

今回、鳥取、岡山、広島、島根、山口、徳島、高知、愛媛、香川のDMAT指定病院より総勢200名程度の方に参加していただきました。

※トリアージとは災害や大事故の現場における患者の治療順位、救急搬送順位の決め方。



## 高松空港訓練に参加しました

平成28年10月20日、高松空港航空機事故対応総合訓練に当院DMATが参加しました。高松空港着陸中の旅客機が突風に煽られ墜落、多数の傷病者が発生したことを想定し、訓練が実施されました。

当院より医師2名、看護師2名、業務調整員2名が参加しました。訓練中は県内の医療機関のDMATチーム及び県医師会、県警察、自衛隊、消防隊、空港事務所の方々と共同で傷病者の搬出、トリアージ、治療、搬送を行いました。

当院DMAT隊員が担当したのはトリアージが行われた後の傷病者の黄色エリアでの傷病管理、緑エリアでの傷病者がどこから来たかの記録の記載を行いました。



## 第2回 回生病院地域連携研修会 開催

平成28年10月20日（木）18時半より、当院5階講堂におきまして地域連携研修会を開催致しました。この研修会は、地域の医療従事者・介護従事者の皆さまと顔の見える連携を図ることを目的に、年に1度開催をしております。第1部では、嚥下機能評価と摂食嚥下リハビリをテーマに、4名の先生方にご講演を頂きました。第2部の懇話会では、皆さまに軽食を召し上がって頂きながら、回生病院の診療科紹介や認定看護師の紹介などをさせて頂きました。日頃なかなか顔を合わせて話す機会のない多職種の皆さまと交流を深めることのできる、貴重なお時間を頂戴できたと思います。



## 市民公開講座 開催

平成28年11月18日（金）15時より、当院新館5階講堂におきまして市民公開講座を開催致しました。講師に、沖本クリニック院長沖本信和先生をお招きし、「今からでもなんとかなる！骨そしょう症～栄養・運動・お薬を、上手にを使って、幸せに～」というテーマでご講演いただきました。

骨そしょう症の原因やそれに伴う病気について、また、骨そしょう症を予防するための食事や日常生活の注意点・治療方法などについてとてもわかりやすくお話しいただきました。

ご参加いただいた方より、実際に実践している予防法についてのお話や実際内服しているお薬の事などについての質問もあり、とても充実した時間となりました。





## ● 山の話 (44)

鎌田壽夫

## ▼ 比叡山（八四三m）その五 ▲

前回は最澄が遣唐使船に乗って唐に渡り、念願とする天台宗を学んだあと、日本へ帰る船を待つまでの間に、そのころはやり出した密教についても勉強する機会があったことを書きました。ですが、日本の密教というのは、空海が伝えて東寺や高野山を創建したと教科書には書いていますよね。

最澄も密教を学んだのに、なぜ空海が密教の祖といわれるようになったのでしょうか？

この理由を書く前に、ちょっと空海のことをおさらいしておきましょう。空海は最澄より七歳くらい年下です。讃岐で幼少時を過ごしました。聡明な子であったので、遠縁をたよって平城京に上がり、十八歳で大学に受かりました。いまでいえば中央省庁のキャリアを養成するところですから、将来は高級官僚になることが約束されていました。

ところが……。かれはその大学を中退してしまいます。放浪の旅にでたのです。理由ははっきりしませんが、どうやら仏法について深く思索したかったようです。とくに仏教のあたらしい宗派である密教という教えにつよく心をひかれました。そして本場の中国で学びたい、と遣唐使船に乗ることを願って許されました。

海のものとも山のものともわからない大学中退者を、どうして国が使節団に選んだのかは、わかりません。

それはともかくとして、面白いと思うのは、その使節団の中にはこれまで書いてきた最澄もいたことでした。もっとも最澄のほうは立派なお坊さん、通訳までついていました。いっぽう空海はいつてみれば学生。身分がちがひ、もちろん待遇もちがひました。

最澄は天台宗のことだけ一年間勉強したら、帰国することになっていたのですが、密教を勉強する目的の空海のほうは、およそ二十年後に次の遣唐使が来るまで勉強することになっていたのです。二人はお互いのことを知ることもなく唐に向かいました。

遣唐使船は四隻で日本を出しましたが、無事に唐についたのは二隻だけでした。そして、その二隻に最澄と空海が乗っていたのです。これも偶然でした。

最澄は求める天台宗の総本山がある南に向かい、求めるものを得て、待ち時間にちょっと密教をかじって、予定通り一年後には日本に無事帰りました。

一方都・長安に向かった空海はといえば……。びっくりするような運命的な人物との出会いです。それは最澄がすでに日本に帰ったころのことでした。運命的な人の名は恵果といひます。密教が興って七代目の法祖です。恵果は、はるばる日本から来た空海を一目見て、感ずるところ

があつたのでしよう、この人を跡継ぎにすることを決めます。異国の若者を次の法祖に指名するという大胆な決断でした。

空海に会ってからわずか半年間で、自分の持っているすべてを伝授し、さらに日本で必要な仏具や仏画もそろえてくれます。これが終わった時、恵果は死にました。

これでおわかりのように、偶然にも二人の日本人が同じ時期に唐に渡って密教を学んだのですが、結果的に二人が得たものは大きな差がありました。

空海が学んだものは密教の正統であり、密教の第八祖という地位まで得たのです。

最澄も、たしかに密教を学んだのですが、教えをうけたのは残念ながら末流でありました。

当然、学んだ結果も貧相なものにすぎなかったのです。最澄はこの事実気がつきませんでした。やがて、もう少しあとになって、この差がはっきりとわかるのです。

(続く)



空海（弘法大師）の肖像画